大阪で「なんでやの？」

市の水道が民営化って

市中央区で自治体学校

「水道が民営化って、なんでやの？」―大阪市中央区で24日、同区の第5回自治体学校が開かれ、大阪市の水道民営化に疑問と懸念・怒りの声が相次ぎました。約70人が参加しました。

同自治体学校の藤原一郎校長があいさつ。NPO法人AMネット事務局長の武田かおりさんが講演しました。

武田さんは、大阪市の水道料金は大都市で全国一安く20年間値上げなしで、いまは年間100億円の黒字だと指摘。公営だと将来赤字になるから民営化しようという議論について、世界で水道民営化は時代遅れだとのべました。「水ビジネス」による料金値上げと水質悪化などで、多国籍水企業が本部を置くパリ市をはじめフランス、アメリカなど世界で再公営化が進んでいることを紹介しました。

参加者から、日本で水道民営化をしている市はあるのか、民営化して災害時に大丈夫なのか、原発事故で琵琶湖が汚染されたらどうなるのか、などの疑問、不安の発言や大阪の水道料金の安さや水質のよさを再認識する発言などが相次ぎ、関心の強さを示しました。「水をもうけの対象にしたらあかん」の声を大きくしていこうとのよびかけもありました。

次回の中央区自治体学校（11月26日午後6時半から中央区・大阪クリスチャンセンター）のテーマは、中央卸売市場の「民営化」。指定管理制度で私たちの食の安全と供給は守れるのかを考えます。

水道民営化について考えた自治体学校＝24日、大阪市

大阪を知り・考える市民の会の学習会＝24日、大阪市

桜田氏（正面中央）の講演を聞く参加者＝24日、大阪市

地下鉄・市バスも民営化

市民の会が学習会開く

大阪を知り・考える市民の会は24日、大阪市内で市民学習会を開き、9月の大阪市・府議会で焦点となっている民営化や統合などについて考えました。65人が参加しました。

「どうなってるの、市バス民営化プラン。市民の足は守られないの？」と題して土居靖範・立命館大学名誉教授が講演。「地下鉄や市バスはだれのものか」と問題提起した土居氏は、「黒字の地下鉄を民営化する。市民の財産を売り払って、そのお金をカジノなどにつぎ込もうというのが、（大阪維新の会の）狙いです」と告発しました。

当時の橋下徹大阪市長は、「市バスは空気を運んでいる」などとして、赤字を理由に民営化へむけて「赤バス」（福祉バス・地域コミュニティバス）の廃止や路線の廃止・減便を進め、生活が不便になっている実態を批判。交通を便利にすることで高齢者のひきこもりをなくし医療費を削減する効果もあるとのべ、国内や海外の例も紹介しながら「交通権の保障は国と自治体の責任だ」と力説しました。

住吉市民病院や衛生研究所の「統廃合」問題についてもリポートがありました。参院選大阪選挙区候補として「住吉市民病院を守れ」と訴えてきた日本共産党の渡部結さんも会場から発言しました。

維新押しつけに怒りの声

府大・市大の統合考える

考える会が学習会開く

大阪府立大学と大阪市立大学の卒業生らでつくる大阪府立大学問題を考える会と大阪市立大学の統合問題を考える会は24日、大阪市内で、学生・院生・教職員の創意をくみ取らず、市民の意見・疑問に耳を傾けず、「維新」知事・市長のトップダウンの押しつけの「大学統合」でいいのかと、「ここが問題！府大・市大の統合」学習会を開き、23人が参加しました。

阪南大学の桜田照雄教授が講演。「維新」知事・市長の「大学統合」を批判し、「大学教育を企業経営と組織論で語るべきではない。大学は商品（人材やノウハウ）を生み出す装置（資産）ではない」と指摘。「知事や市長は資産としか考えていない」と批判しました。「大学は議論を通じて若者の成長・発達をサポートするのが役割であって、業者のように知識を提供して見返りを得るところではない」と強調しました。

討論では、「統合といったら聞こえはいいが、今やられているのは大学壊しであり、教育壊しだ」「『統合』に学生の視点がない」などの意見が出されました。